

中学生の「税についての作文」

大川市長賞

めぐる税金

大川市立大川東中学校

三年 松葉友花

私たちは一人で生きていくのではなく家族、学校、職場、地域社会などいろいろな社会集団の一員として生活しています。そんな中、お金というのは人が生きていくために非常に必要不可欠な存在です。そこでそのお金を国民が税金という形で法律に基づき負担しています。正直、まだ私には税金というものがどこでどう使われ、どんな税金があるのか詳しく完璧に知ったとは言えません。しかし学校で使う道具を買うとき、ずっとほしかった洋服を買うとき、友達と昼食をとったり、セブンスイレブンでちよつとしたお菓子を買ったりする時、私たち学生でも、税金の一種である消費税をそのものの値段に上乗せしてお店に払っています。そこで最近授業の中で私たち学生でも納税者の一人であることをふと思ひ出したとき、自分の中で変に不思議な気持ちになりました。納税者というのは、もつとずっと遠い存在でまだ先の話だと思っていたからです。そう気づき始めていく中で少しずつ税金につ

いて興味がわいてくるようになりました。

消費税を例にとつてみると、どんな立場でどの年齢の人からも一定の比率で税金を納めるので公平ですが、生活に余裕がない人達やそもそも収入がない子どもからしたら、負担が大きいにゃないかと思ひます。しかし、ついこの間テレビでたくさん稼いだ人はたくさん税を納め、少し稼いだ人からは少しだけ納めるというシステムを耳にしました。それだけを聞くと一人一人が負担に感じる度合いは一定なのかもしれませんが、沢山働くほど他の人より沢山の税金を取られるのには不平等だなあと思うのも納得できます。今の私にはどちらの納め方がいいのか、まだよく分かりません。

一人一人から少しずつ集めたお金は国にとつては莫大な金額になることでしよう。そのお金は個人ではとても用意できないような高齢者や体の不自由な人などのための施設や働く人のための措置、私たちの健康を守るための医療施設の整備などや、障がいなどで思う存分働けず収入が不安定な人を支援するためのお金、または健康者で働ける人でも災害などで働けなくなり居場所すらなくなった人たちのためのお金として使われています。それに今私たちが使っている教科書なども自分たちが払っている税金から支給されています。そう考えると、自分のお小遣いから一度出ていった数十円はみんなのお金と集計され、たくさんさんのいろんな人の役に立っているのかな。もしかしたら何らかの形でまた自分のもとに帰ってきているんじゃないか。と思うようになりました。そう思ったら今まで私の中にあつた税金という存在が私の中で百八十度見方が変わった気がします。それにこれからは明るい気持ちで税を送り出そうという気持ちになりました。